

建設 防災 ボランティアニュース 第 30 号

新年を迎えて

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。正月三が日は、天候に恵まれ皆さん初詣に出かけたり、テレビで箱根駅伝を観たり、ご家族とともに寛いだひと時を過ごされたことと思います。

さて、昨年を振り返ってみますと、中国四川省の地震、岩手・宮城内陸地震や台風の上陸こそありませんでしたが、集中豪雨による被害が各地で見られました。東京でも河川部による水防連絡体制の設置は91回になり、八王子市でがけ崩れで家屋が被災するなど、大変な1年でした。

さらに、自然災害だけでなく人為的にも100年に一度といわれるアメリカのサブプライムローンに端を発する経済状況は、日本も年末にかけて企業経営や雇用に厳しい状態になってきました。

今年こそ穏やかな少しでも明るい兆しの見える年になってほしいものです。今年の当協会の活動は、皆様のご協力によって無事に目標を達成することができました。

おかげさまで、各方面より感謝と高い評価や期待をいただいております。本年も皆様の一層のご協力をお願いしますと共に、この一年が皆様にとって素晴らしい年になりますよう祈念いたします。

最後に、当協会の活動にご指導ご協力いただいております建設局、東京都道路整備保全公社、東京都公園協会にお礼申し上げますと共に変わらぬご支援を賜りますようお願いいたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

建設防災ボランティア協会会長 沼尻 敦

平成 20 年度救命講習会の開催

20 年度の救命講習会は、3 年前に受講した会員対象に、10 月 28 日に新宿消防署講堂で開催されました。

当日は 29 名の会員が参加して CPR と AED の使用法を熱心に受講しました。(広報担当)

救命講習会の報告

「もっと力を入れて！ ハイ！1.2.3.4……」担当教官の厳しい声がとぶ。

ここは新宿消防署1階講習室。「ホテルに女性が倒れています。場所は……」などという切迫したアナウンスが漏れ聞こえる中、「普通救命再講習会」に会員 29 名が参加しました。

今回は 3 年前に受講した会員に対する「応急手当」の再講習です。内容は CPR (心肺蘇生) と AED の使用法。実技のほか最後には厳しい筆記試験付でした。



(CPR 実習中の会員)



(CPR 実習中の会員)

CPR の内容は人工呼吸と心臓マッサージです。心

臓マッサージの実技は約2分で交代ですが、たった2分の長いこと。終わると「ヒャー…」「フー…」というような声があちこちから聞こえてきます。



(AED実習中の会員)

一方、AEDは基本的には機械の指示どおりに操作すればいいのですが、実際の現場に遭遇した場合冷静に対応できるかが課題だと思いました。

3年間で対応方針が変わったところもありました。止血について、前は患部近くの動脈を強く縛って止める方法がありましたが、現在これは禁止されており患部を強く抑える方法のみに変わっていました。

幸いこの3年間、私は応急措置の必要な現場にぶつかることはありませんでしたが、今回2度目の講習を受けて、もし遭遇したら臆せず手を上げてみようという覚悟を新たにさせられた講習会でした。

戸張 好一

秋期道路施設点検の実施

1. 南西建班の報告

南西建は今年度、道路の施設とバリアフリーの点検を9班で7路線で実施するが、そのうちの1路線を、管理課田中監察係長、角田工事調整担当係長と防災ボランティアの田上、中込、堀内、吉田で11月5日(水)点検した。

当日の点検路線は一般都道506号線八王子城山線のうち、甲州街道境の八日町交差点から北野街道の小比企交差点までの約2.7kmである。

点検に先立ち、宮本所長から点検参加へのお礼の言葉をいただき、早速現場に向かった。

この路線は八王子市の中央部を南北に結ぶ路線で、甲州街道から北側は国道16号線である。

点検対象の北側約3分の1は八王子の中心街で、商店が並び歩道も広く快適な歩行空間である。南側

は歩道が狭く上り下りが繰り返す坂道になっている。

点検は3名ずつ2班で両側の歩道をそれぞれ担当した。北側の整備済みの区間では、街路樹の根上りによる踏み固め防止盤(鉄製)の浮き上がりや私的植栽の改善が望まれる箇所があった。

歩道が狭い区間では、歩車道の高低差の改善が望まれるが、当面は不要な切り下げの解消、歩道上の障害物(舗装面より高い境界石など)の撤去などを願った。

中野区道でガードパイプが外れ女性が負傷した事故があったので、沿道のガードパイプも重点的に点検したが、問題のあるようなところはなかった。



(参加会員と南西建の職員)

点検当日は天候に恵まれ、快適な運動になったが、後半の狭い歩道部分は、ガードレールのないところを大型車がすぐ脇を通過するのでヒヤリとを感じる時もあった。

多摩地域には歩道のない区間や狭い歩道部分が多いが、順次安全対策の実施を望みながら点検を終了した。

南西建班 吉田 安輝

2. 各事務所の会員参加状況

事務所	実施日	参加会員
一建	11 / 17・26	中嶋・山崎
二建	2 / 2	草野・小林(寛)・澁谷・野村(隆)・野村(孝)・柳川・山口・倭文
三建	11 / 18・19・21	飯山・井出・加藤小川(恭)・雑賀・高本・瀧澤・中田(勝)
四建	11 / 11 ~ 13	島田・丸山・黒淵

五建	11 / 25・28	伊藤(政) 佐藤(恭)
六建	11 / 12	生田・栗田・高木 田戸
西建	11 / 10～13	池野・伊藤(浩) 小山(弘)・松本 谷貝
南東建	11/21	原田・内川・田澤 織田・平瀬・杉本 佐藤(俊)・丸岡
南西建	11 / 5	田上・堀内・中込 吉田(安)
北南建	11 / 21, 12 / 4	後藤・三沢
北々建	11 / 20	天野・岩田・中山 佐藤(清)・名和 松倉・藤井

(敬称略 計 54名)

平成20年度砂防講習会の開催

12月19日(金曜日)の14:00から、本年度の砂防講習会を道路整備保全公社 26階大会議室で開催し、昨年より多い45名の会員が参加して熱心に聴講しました。

講習会は佐藤理事の司会で、小山副会長の挨拶の後、ご多忙の中を出席頂いた廣木河川部長の挨拶に続き、谷本防災課長から河川事業の説明を受けました。



(廣木河川部長)

続いて、高橋防災課砂防係長、藤橋計画課計画調査係長、浅見防災課防災担当係長の順に講演がありました。お忙しい時期にも拘らず、講習会のためご尽力くださいました河川部の皆様に改めて感謝申し上げます。(広報担当)

砂防講習会の報告

年の瀬も押し迫った去る12月19日、議会明けとは言えご多忙の中、廣木河川部長を始め谷本防災課長、関係各係長のご好意により、45名の参加を得て「砂防講習会」が実施された。



(谷本防災課長)

今年は台風の日本上陸こそ無かったが、異常な集中豪雨が多く、島しょの体制強化はあったが、水防体制が91回(昨年の3倍)、うち17回の水防本部が設置されたようだ。

4月の養沢川(あきる野市)、8月末の八王子・初沢での土石流やガケ崩れなど、土砂災害は多摩地区で多く発生している。

都内には8,000箇所以上の土砂災害危険箇所があり、今後の対策はハード・ソフトの連携が重要である。



(高橋防災課砂防係長)

特にソフト面の特別警戒区域の指定などは、住民にその危険を知らせ、開発行為の許可や建築物の構造規制などを行って、事前に人命や財産を守る新しい試みである。

今年度よりその補助業務を公園協会に委託しているが、今後の職員の退職者と新規採用者の数などを考えると、行政経験者の支援・協力が欠かせないようだ。



(藤橋計画課計画調査係長)

さらに神田川の洪水予報の運用開始について説明があった。今年も大田区の呑川や豊島区の下水道工事現場で水位上昇に起因する死亡事故が発生した。

緊急地震速報ではないが、僅かな時間でも災害を事前に予知・周知することで、少しでも洪水被害を軽減しようとするものである。



(浅見防災課防災担当係長)

気象庁のナウキャスト予測雨量と都のテレメータ実績雨量を用いて、1時間先の降雨量を予測し、基準点の河道 H-Q 式より避難判断水位を算出して知らせるシステムだ。

水位上昇の早い都市河川では課題も多いが、シミュレーションを重ね、近く実施される予定である。

今回受講をして特に感じたことは、河川行政の確実な進歩と関係職員の災害撲滅に対する熱意である。防災ボランティアの一員として高齢化は避けられないが、新しい情報の把握と微力だが経験した技術の支援に努めたいと再確認した次第である。



(熱心に聴講中の会員)

二建班 小林 寛治

協会からのお知らせ

1. 入会会員の紹介

大坪 安則 (H20.10・南東建)

海老澤 義秀 (H20.10・北北建)

敬称略(入会年月・参集事務所)

2. 平成20年度の施設見学会は東京国際空港再拡張事業として施工中のD滑走路建設工事の現場を、施工JVの協力を得て2月20日(金)に開催します。

3. 平成20年度の防災講習会は、土木技術センターにお願いして、岩手・宮城内陸地震の現地調査報告を中心に講演していただくことになりました。

3月4日(水)14:00から道路保全公社26階大会議室で開催します。

編集後記

皆様のご協力で、本年度4回のADVニュース発行を予定をどおりできました、広報担当一同より改めて感謝を申し上げます。21年度も引き続きよろしく願いいたします。

発行人: 沼尻 敦

発行: 東京都建設防災ボランティア協会

所在地: 東京都新宿区西新宿2-3-1

財団法人 東京都道路整備保全公社内

編集: 加藤 基雄、中田 勝司、丸岡 敏夫